

ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 木村 匡登

■使用テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編集） 「最新・社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]」中央法規出版
◆参考テキスト	

講義概要・一般目標

本科目は「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワーク実習」などと相互に連結する理論科目として重要である。ソーシャルワーカーである社会福祉士が行う専門的業務を理論的に整理し、具体的な方法を身につけていきましょう。そのため、ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ（共通）を踏まえ、社会福祉士として、多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解していきましょう。

そのため社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解しましょう。また、個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための事例分析の意義や方法を理解しましょう。

到達目標

- 1) ソーシャルワーク実践における社会資源の活用・開発に資する知識・技術を理解し、説明することができる。
- 2) カンファレンスの意義と目的、展開過程について説明することができる。
- 3) 事例分析、事例検討、事例研究の目的と意義・方法について説明することができる。
- 4) ソーシャルワークに関連する技法について、その意義と目的、方法について説明することができる。

評価方法

科目単位認定試験により評価する。

学習指導

第4章 ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発

この章のポイント

クライアントシステムのニーズ充足のための社会資源にはどのようなものがあるか学びましょう。こうした社会資源を活用することがクライアントのニーズの充足にどのように関係するか考えましょう。また、既存の社会資源では対応できないニーズには、どのように新たに社会資源を開発していくか学びましょう。

第5章 カンファレンス

この章のポイント

ソーシャルワーカーは、個別支援のケースカンファレンスはもちろんのこと、マイクロ・メゾ・マクロのどのレベルの実践においても、他者との協議等の会議が行われます。それぞれの会議の種類や方法について学びましょう。また、会議の計画から準備、会議の進行について整理しましょう。

第6章 事例分析、事例検討、事例研究

この章のポイント

ソーシャルワーカーには、自分の実践を振り返り、より質の高いサービスを提供する責務があり、そのため常に自己研鑽を怠らない努力が必要です。ソーシャルワーク実践の質の向上とソーシャルワーカーの専門性を高める方法として、事例分析・事例検討・事例研究の目的や意義、方法、留意点について学ぶ。

第7章 ソーシャルワークに関連する技法

この章のポイント

ソーシャルワーカーは、マイクロレベル、メゾレベル、マクロレベルの様々な局面で、状況に応じた適切な方法を考え、実践することが求められます。ここでは、ソーシャルワーク実践をする際に援用できる技術や技法について、ネゴシエーション、コンフリクト・レゾリユーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャル・マーケティングを学びましょう。